



真美中だより

令和6年度
3月号

令和7年 3月 5日発行
発行者 校長 西畑



めざす生徒像

☆基礎・基本を定着させ、自ら学び考えて行動できる生徒（確かな学力）
☆勤労と責任を重んじ、礼儀正しく社会参画できる生徒（豊かな心）
☆明るく元気でたくましく心身を鍛える生徒（たくましい心身）

校訓

学び鍛える人たれ
明るく優しき人たれ
耐え忍べる人たれ

1年間を振り返り、次年度へのステップにしよう！



令和6年度も残すところあとひと月となりました。今年は2月上旬と下旬に最強寒波と言われる寒波が押し寄せ、朝晩の寒さが厳しい日も多かったように思います。最近ところどころに春の気配が感じられるようになり、ようやく冬も終わろうとしています。

さて、関西に春を呼ぶと言われる東大寺の「修二会（お水取り）」が始まりました。修二会は、752年（天平勝宝4年）に東大寺を開いた良弁大僧正の弟子僧・実忠（じっちゅう）が開始して以降、現代に至るまで約1200年間、中断されることなく続けられてきたとされることから「不退の行法（ふたいのぎょうほう）」とも呼ばれています。今年は3月1日（土）～3月14日（金）の期間行われます。修二会はかつて旧暦2月1日から2月14日（15日未明）まで執り行われていた法要ですが、1863年（明治6年）より新暦の採用に伴い、一ヶ月後となる3月1日から執り行われるようになっていきます。お水取りとは「修二会の中の1つの行事」のことです。この行事の最中、二月堂の手前にある「閼伽井屋（あかいや）」という建物の中にある井戸にお水を汲みに行き、その「お水（お香水）」を二月堂の御本尊である「十一面観音」にお供えする習わしがあるため、「お水取り」と呼ばれています。「お水取り」が終わると本格的な春に向かって季節は一気に進みます。

そのような中、学校では、一年の締めくくりの時期を迎えます。

3月14日には真美ヶ丘中学校第38回の卒業証書授与式があり、3年生に卒業証書を手渡します。3年生一人一人が、最高学年としての自覚をもち、学校生活のあらゆる場面でリーダーとなり、「学校の顔」として期待に応える活躍をしてくれました。11日に行われる奈良県公立高校の一般選抜試験を目前に控え、最後の頑張りをを見せてほしいと思っています。



また、1年生は中学校生活にもすっかり慣れて、心も体も成長しつつある中、自信あふれる行動や言動が数多く見られるようになりました。2年生は中堅学年として日々の学習や部活動などに積極的に取り組みました。特に部活動では夏休み途中から、自分たちの代になり一生懸命頑張り、後輩である1年生にも様々な面で先輩としてのアドバイスをしてきました。

このように1年間で一人一人が大きく成長できたことと思います。しかし、日々の生活の中には、うまくいかず反省しなければならないことを経験した人も多いはずです。それぞれが自分の生活を振り返り、次年度へのステップにしたいと思います。

3月学校行事等

3月 MARCH

SUNDAY	MONDAY	TUESDAY	WEDNESDAY	THURSDAY	FRIDAY	SATURDAY
						1 公立高校卒業式
2	3 3年給食後下校	4 45分×6限 3年給食後下校	5 清掃なし 部活動なし 県SC	6 公立出願最終日 町SC	7 50分×5限 清掃なし 部活動なし 心	8
9	10 ワックスかけ 45分×6限 3年給食後下校	11 公立一般入試 3年家庭学習	12 AM4限授業 PM予行準備 3年給食最終日 3年給食後下校	13 卒業式予行 PM式準備	14 第38回卒業 証書授与式	15
16	17 50分×4限 清掃なし	18 一般合格発表 50分×4限	19 50分×4限 給食最終	20 春分の日	21 50分×3限 清掃なし 心	22 新入生 物品販売
23	24 R6年度修了式 離任式 町SC	25 春期休業開始	26	27	28	29
30	31					

今月の一言

世界には、きみ以外には誰も歩むことのできない唯一の道がある。
その道はどこに行き着くのか、と問うてはならない。ひたすら進め。

フリードリヒ・ニーチェ（1844年～1900年）

ギリシア哲学やショーペンハウアーなどから強く影響を受け、鋭い批評眼で西洋文明を革新的に解釈した。実存主義の先駆者、または生の哲学の哲学者とされる。

